

壊れゆく“若者たち”

File.74 デジタル症候群 ～日本人の国民性と個人情報に関するネットのモラル

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

先日、女子プロレスラーの木村花さんが、出演したテレビの演出が原因でインターネットでの誹謗中傷を苦にして自殺するという痛ましい事件が起きました。現在でもSNSを利用した個人への誹謗中傷は後を絶ちません。中には「有名税」と称し、有名になつて注目されることは「良い影響があれば悪い影響もある」という意見がありますが、これは決して賛成すべき話ではありません。

SNSは世界中で利用されていますが、特に日本（だけというわけではありませんが）は、利用方法を本当の意味で熟知しないと、自国民を滅ぼすと言つても過言ではありません。その理由は日本人の持つ、島国特有の閉鎖性です。出る杭を叩くという特性が人の成長を阻害しており、それはネット上のやり取りでも同じことになっていきます。具体的に言えば、人の成功を妬む、意味もなく個人的な感情で人の悪口を書き込む、という足の引っ張り合いです。

この行為を助長させているのがネットの匿名性です。書く側にはリスクがなく、書かれる側は大きなリスクを伴います。

「ネットの情報なんて気にしなくていい」なんて、ネットを知らない人のコ



Profile

東京都大田区生まれ。
英国ウエールズ大学MBA（経営管理修士）。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
（株）グッドクロス取締役COO
長年コールセンター運営に携わり、人と人のコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
beecall103-6420-2088
[http://www.beall.jp]

メントに過ぎません。今、ネットがなくては生きていけない人の割合が増えています。ネット上での存在を失うことは、自分という存在を失うに等しいのです。有名であっても人間です。自分への執拗な中傷を受けて、なんとも思わないわけありません。「見なければいい」という人は、自分の知らないところで何が書かれているかを考えてみた方がいいと思います。仮に自分の住まいの情報や、事実無根のことが書かれていられるかもしれない中で、それを確認せずにいられるのでしょうか。身の危険を伴っているのです。そして、ダイレクトメッセージで自己否定され、「死ぬ」「今から行く」と言われることは、味わったことのある人でしかわからない恐怖です。インターネットはデジタルタトゥーともいわれ、一度書かれると簡単には消せない、残酷なものなのです。

問題視すべき部分は「匿名性」であ

ると感じます。この部分は大衆がネットを利用するようになった20年前から未だに解決していない問題なのです。仮に発言者も自分の個人情報を開示した上であれば、発言に責任が出るので、今よりも状況は改善すると考えます。コロナウイルスの影響でネット社会が加速する状況下で、ネットとの共存方法が良い形で整備されていくことを願います。



「最高の結果を得る」
日本実業出版社
定価：1500円（税別）